

第二寮寮歌

昭和七年第十四回卒 村田 憲治 作詞

昭和六年第十三回卒 村井 氏 作曲

一、金港立ちて幾拾年

都に近くこの浜に
三歳の春を送らんか
燃へなんとする我が理想
八紘に響く雄叫びは
惰眠を醒すにさも似たり
いざや讃へん大らけく
いざや歌はん大らけく

二、風和やかに游糸のたち

閑かに暮れし宵の春
愉しき想ひ胸に秘め
詩の如やはき薄霧の
淡き望みにまどろみつ
育れたる弘陵の
ああ高らかに讃へんか
ああ高らかに歌はんか

三、樹蔭静かにうす紫の

藤散りそめし頃よりは
去りにし想いかこつあり
又打なへしつゝじみて
寂しきうつゝ思ひしか
ひそかにむせぶ人のあり
なれど讃へん朗らかに
なれど歌はん朗らかに

四、空あくまでも高く澄み

淋しく街に陽の入れば
涼風よくも地にぞ這う
よき時なれや若人の
流石に胸の悩み癒へ
理想にさむるおゝ今ぞ
されば讃へん我が寮を
されば歌はん我が寮を

五、歳暮れ初めて美えかなる

鉛の空に低くちる
雪ひそかに窓を打ち
琴瑟のさえゆるやかに
去りにし三歳思いつゝ
来らん春を呼ばんかな
さてうれしきに讃へんか
さてうれしきに歌はんか

六、消えにし春の憶出に

夢見ざりしや我が友よ
夏去り秋も来れなば
こよなくよきとむかえしも
冬枯の風ひしと侵み
そは悲しくも身に泣けば
されど讃へん横浜を
されど讃へん横浜を